

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	販売量の動き	・近隣商店街での消費は横ばいで推移している。外国人観光客数が順調に推移しており、前年を上回る売上が続いている。ただ、日本人観光客が増えてこないことが気掛かりである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・寒い時期に入っても、東南アジアからの観光客は微増している。また、日本人観光客が戻りつつある。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・衣料品の客単価が大きく上昇している。買上客数の減少分をカバーしており、売上は前年を上回った。気温が前年に比べて高めに推移しているものの、冬物の動きが堅調であった。また、高質顧客向けの催事も売上が好調で、高単価商材の成約が増加している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が減っており、少し苦戦しているが、商材は質の良いものから売れている。
		スーパー（役員）	単価の動き	・この数か月、来客数が前年を2～3%下回って推移していたが、11月は前年を上回った。また、客単価も前年から約2%上昇しており、売上も増加してきている。
		スーパー（役員）	単価の動き	・青果、肉、魚の生鮮3品の単価が上がっていることで売上が好調に推移している。客も単価の上昇にそれほど抵抗がないようである。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・長期間低迷していた早朝の来客数が回復している。特に男性客の増加が目立っており、たばこの売上も回復している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車が発表されたことで、受注量が上向きに転じている。また、それほど実感がないが、消費税増税を控えた駆け込み受注もみられ始めている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・客が徐々に戻ってきており、販売量が前年又は前々年を大きく上回るようになってきた。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・利用客が前年から約10%増えている。
	パチンコ店（役員）	販売量の動き	・消費税増税を控えて、建設業やハウスメーカーの売上が良いようである。また、消費税増税と関係はないのかもしれないが、流通業も伸びているようである。	
	設計事務所（所長）	競争相手の様子	・年末に近いこともあるが、以前よりも工事現場の数が増えている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・防寒物のアウターのスタート月であったが、気温の高い日が続いたことが影響して、客の購買意欲が今一つ上がらなかった。新しいアウターを購入するというよりも手持ちの物で済ませるといった形になっており、購買にまでは結び付いていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・雪が降るようになり、天候が悪くなってきたこともあり、景気は停滞気味である。客からもやや景気が悪いという話をよく聞く。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・例年、11月は販売量、客単価ともそれほど良い月ではないが、今年に関しては販売量が上向きになっている。ただ、景気が良くなったという印象はない。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・秋物の動きが活発である。前年と比べて気温が低いいため、コート、ジャケットの売上が前年よりも5%ほど増加している。これから寒さが続くという予報が出ているため、コート、ジャケット、ニットの動きが活発になっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年比98%と微減しているものの、売上は前年並みを保った。降雪の遅れや気温の高さから、防寒物のアウターやシューズの動きが鈍く、特に婦人服関連の売上が減少したが、お歳暮ギフトが早い段階から動きをみせている。また、クリスマスギフトの下見も増えており、客の購買意欲が上昇している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・日々の状況を見ると、客単価が上がっている日と下がっている日が極端である。また、おせちは客単価が平均で3000円ほど上昇しているものの、買上客数が減少している。
百貨店（販売促進担当）		来客数の動き	・11月に入ってから、来客数、買上客数が減少傾向になっている。一方で、客単価は大幅に上昇しており、結果的に売上は前年をやや上回った。	
百貨店（役員）		来客数の動き	・11月は前半こそ冬物を中心に動きがあったが、後半は失速しており、月全体としては前年を下回った。	

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の回復が進まず、高単価品の販売量の回復も遅れている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・一次産業、特に漁業関係者の動きが悪い。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・LED照明器具などの省エネ家電に人気が集まっており、売上が前年よりも増加している。一方で、必要なもの以外は買わないという状況もみられる。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・テレビについては、4Kテレビ等の高付加価値商品が売れてきているものの、テレビ全体の販売量が伸び悩んでいる。そのほかの大型家電については、販売量がほぼ横ばいで推移している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の発売効果で全体の落ち込みをカバーできた。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・競合店も含めて、3か月前から前年実績をキープできており、年内に関しては景気の変化はみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・中旬までは好調に推移していたが、下旬は悪天候の影響があり、最終的には前年並みとなった。ランチタイムは外国人、家族連れ、ビジネスマン、カップル等が目立った。悪天候の影響がなければ、売上は前年を10%程度上回る見込みであった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は荒天の日が少なかったこともあり、例年並みの売上であった。ただ、景気が上向いているかについては判断がつかない。食品表示問題は来客数に影響していない。また、札幌の中級レストランでは、週末に企業の予約が増えてきたと聞いている。地方の繁盛店は、札幌よりも昼食単価が高いががんばって集客している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・水産業及び農業が堅調なため、管内景気はやや上向きの傾向が続いている。札幌と当地を移動するビジネス客の動きも前年をやや上回って推移している。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来客数の変動が大きい。客単価も変わっておらず、景気が上向いている実感がない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は雪の日が少なく、前年よりも売上が大きく減少している。前年に雪が多かったことの反動が原因とみられるが、夜の人出が増えていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年とほぼ同じ実績であった。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・全般的に消費者の意識にそれほど変化はみられないが、年金生活者においては年金の減額があったため、生活を少し切り詰めようという意識が感じられる。
	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・冬を迎えて、すでに観光シーズンが終了していることから、3か月前よりも売上は減少しているものの、公共工事が継続しているため、前年実績を上回っている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・降雪が早かったため、来客数が減少している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・周辺住民など、徒歩による来街者の日用品の買物はほぼ変わらないものの、商店街周辺の駐車場は一日中空きがある状態となっており、自家用車による来街者が減少している。また、2か月前と比べて寒さが厳しくなったこともあり、バス停留場の乗降客も少なくなっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上が前年の7割程度で推移しており、かなり悪い状態にある。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量はここ3か月連続して右肩下がりとなり、前年との比較でも89%と低迷している。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・11月は今一つ消費者の財布のひもが固い。食品表示問題があったにもかかわらず、おせち料理の予約が好調なようだ。衣料品は前年の売上を下回って推移している。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・寒くなってきているが、冬物衣料の販売量がなかなか増加してこない。
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・10月以降、高額品の動きが鈍くなっている。
	その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・健康志向の強い顧客の購買意欲が低下しており、懐具合が厳しくなっている傾向がうかがえる。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・11月になってから、客足がかなり減っている。理由は分からないが、前年や前々年と比べて減っている状況にある。

	観光型ホテル (経営者)	それ以外	・ 来客数、客単価は堅調に推移しているものの、電気料金を始めとした公共料金の値上がりと原油高による物価上昇で採算が悪化している。また、最低賃金の上昇や人材不足による人件費高騰の影響も大きい。	
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ 観光のオフシーズンに入り低調気味である。外国人観光客は韓国が不振である。新興のタイが健闘しているが、まだ絶対数が少ない。	
	旅行代理店(従業員)	単価の動き	・ 海外旅行が激減している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 前月は持ち直し感もあったが、11月は前年と比べて3%程度落ち込んでおり、年末、来年に向けて消費者の動向がかなり厳しくなっている。今後の見通しが不安定な状況であるため、今月の状況をより一層厳しくとらえている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 11月に入って、タクシーの利用客が減少している。雪が降った日は利用客も多かったが、それ以外の日は少なく、特に夜の繁華街は閑散としている。3か月前の売上を比較すると約15%も落ち込んでいる。前年比も若干減少していることから、やや悪くなっている。	
	通信会社(社員)	お客様の様子	・ 数か月前は現政権の経済対策への期待や消費税増税前の駆け込み需要など、市場が活性化される要素があり、実際にその雰囲気に取りこまれる形で消費が活発化した。年末を控えてそれらの要素が減速基調に転じている。実際に現場でも12月までの受注はあるが来年分は未定との声が聞こえ始めている。	
	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・ 輸入価格の上昇分を販売価格に転嫁できない状況が続いている。	
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・ 分譲マンション業界では、10月以降モデルルームへの来訪者が減ってきている。消費税増税による駆け込み需要が9月で一服したとみられる。	
	悪くなっている	-	-	
企業 動向 関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている			
	食料品製造業 (経営者)	それ以外	・ 年末の賞与が期待できる。	
	金融業(企画担当)	それ以外	・ 建設業は、公共工事の増加と住宅着工の駆け込み需要で好調である。観光業界は、円安とLCCの就航で外国人や若年層の観光客が増加している。雇用環境は、新規求人数の増加が続いており、失業率も低下するなど、改善している。	
	コピーサービス業(従業員)	受注量や販売量の動き	・ 受注量が増えており、前年を上回って推移している。	
	その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注量や販売量の動き	・ 新たな取引先からの引き合いが始めてきた。	
	その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・ 公共工事の予算増加により、関連業種の良化傾向がみられる。	
	その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・ 人手が足りないくらい客先の仕事は確保されている。当社の重点商品である溶接機、電動工具、作業工具等の買換え需要も発生しており、売上増加につながっている。	
	変わらない	食料品製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・ 3か月前と比べて受注量に特段の変化はなく、やや低調な受注状況が続いている。
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ 大都市圏の好景気に支えられる形で、受注が堅調に推移している。個人消費も高額品を中心に底堅く、家具インテリアにおいても同様の状況にある。	
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・ 建築工事を受注する建設会社の職員や下請労務者の不足が一向に改善されないため、工事の総量が増えない。	
輸送業(営業担当)	取引先の様子	・ 年末年始が9連休となり、フェリーやRORO船の連休、届先営業倉庫の休業が決まっていることで、11月末より医薬品、飲料品の先送り輸送が始まっている。また、道東地区においては、来年の工事に向けて太陽光発電システムのソーラーパネルの輸入が始まっている。		

	司法書士	取引先の様子	・消費税増税を控えて不動産取引、建物建築等が上向くとの情報もあったが、現時点で特に変化はなく、むしろ前年よりも減少している。
	司法書士	取引先の様子	・住宅新築が以前よりも若干増えているが、景気回復につながるほどの変化はみられない。
	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・建設工事が集中しているため、レンタル機械の供給が追いつかない状況にある。
やや悪くなっている	輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・注文や入荷品に夏場までの勢いがなく、消費税増税前の駆け込み需要による活況感が、秋口以降、乏しくなっている。
	司法書士	取引先の様子	・不動産の売買と住宅の改装工事が減少したままである。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連	-	-	-
良く なっている	-	-	-
(北海道)	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・ここ3か月、当社における登録者が増加しているが、合同企業説明会などへの来場者は急減している。詳細は不明だが、最近の求人の増加にともない就職が決定しているとみられる。一方、3年間以上、未就職の若年者が増加傾向にあり、求人企業と求職者のミスマッチが拡大している。
やや良くなっている	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・ベットタウンとして人口が増えた隣町にスーパーやホームセンターが相次いで開店していることで、有効求人倍率が1.01倍と高くなり、人材確保が厳しい状況になっている。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・建設業界の人手不足は深刻な状態にあり、工事の遅れや入札不参加が多数みられている。一方、飲食店や小売の個人消費関連は堅調に推移している。いずれの職種も採用には時間がかかっており、リピート求人の多い状態が続いている。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から18.4%増加し、45か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から17.5%増加し、45か月連続で前年を上回った。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・一部の業種では求人数に若干の減少がみられたものの、全体的に求人数の増加傾向が続いている。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・公共事業の拡大を背景に建設業からの求人が好調を維持している。また、景気回復を背景とした個人消費の持ち直しや消費税増税を控えての駆け込み需要に対応するため、小売業からの求人が増加している。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・求人倍率は上昇しているが、雇用形態や給与、待遇面での変化がみられない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・サービス業全般で求人数が例年並み又は例年を下回っているが、製造業や貨物運送業の求人が高水準で推移しており、全体としては求人数に衰えがみられない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	採用者数の動き	・秋口からの景気の上向き傾向は変わらず継続しているが、さらに上昇傾向が強まっていることはない。また、今後、景気が上向きような要素もないため、秋口からの状況は変わっていない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・11月の募集広告の売上をみると、売上上位8社までが前年を上回っており、全体で前年比119%と引き続き堅調に推移している。加工製造卸の求人が倍増したほか、自動車関連の求人も例年にないほどの出稿があり、前年の8倍に達した。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・10月の新規求人数は前年を12.3%上回った。新規求職者数は前年を10.4%下回った。月間有効求人倍率は0.85倍となり、前年の0.73倍を0.12ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合が44.6%と低く、求人者と求職者の間の職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数は上向きであるが、全道的に未内定の学生が多く、学生も内定承諾に至っていないため、企業側の求人活動が長引いている。求人数の動きと景況感が連動していない状況にある。
やや悪くなっている	-	-	-

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---